

## V307a X線分光撮像衛星 XRISM の科学運用の現状 (2)

吉田鉄生, 林克洋, 金丸善朗, 小川翔司, 福島光太郎 (JAXA), 寺田幸功, 田代信 (埼大/JAXA), 高橋弘充, 水野恒史, 深沢泰司, 阪本菜月 (広大), 信川正順 (奈良教育大), 宇野伸一郎 (日福大), 中澤知洋, 大宮悠希, 大熊佳吾 (名大), 内山秀樹 (静大), 久保田あや (芝工大), 勝田哲, 塩入匠, 本上侑吾 (埼大), 寺島雄一, 志達めぐみ, 新居田祐基, 高木利紘 (愛大), 山内茂雄, 太田直美, 白木天音, 鈴木那梨 (奈良女子大), 北口貴雄, 山田智史 (理研), 坪井陽子, 米山友景, 根本登 (中大), 内田悠介 (東理大), 江口智士 (熊本学園大), 谷本敦 (鹿大), 善本真梨那 (阪大), 内田和海, 海老沢研, 渡辺伸, 飯塚亮 (JAXA), Matt Holland, Tahir Yaqoob, Chris Baluta(NASA), Michael Loewenstein(NASA/U. of MD), Eric Miller(MIT)

2023年9月7日に打ち上げられたX線分光撮像衛星(XRISM)の運用は、衛星搭載機器の機能確認等を実施するCommissioningフェーズを終え、予稿投稿時点(2024年6月)では定常運用PVフェーズ(Performance Verification)に入っている。PVフェーズが終わるといよいよ世界中の研究者からの観測提案に基づいて天体観測を行うGOフェーズ(Guest Observation)に入る予定である。我々科学運用チームはXRISMの科学成果を最大限に引き出すために、観測スケジューリング(ToO観測への対応を含む)、軌道上データを用いた高次データ処理およびアーカイブ処理とその結果の検証、即時解析データの検出器チームへの配布、X線突発天体の検出と解析、研究者向けウェブサイトの保守・管理、公募観測に向けたヘルプデスクの立ち上げ、観測提案システムの検証試験などの活動をおこなっている。これらの活動は、衛星運用および検出器開発チーム、NASA/XRISM SDC, GOFやESA/ESACの地上ソフトウェアチームやユーザーサポートメンバーと連携して進めている。本講演ではXRISMの科学運用について、主にPVフェーズのステータスをまとめ、今後のGOフェーズにおけるプランを報告する。